

日本気象学会

九州支部だより

No. 135 2021年7月



発行者

日本気象学会九州支部

〒810-0052

福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区気象台防災調査課内

Tel: 092-725-3614

Fax: 092-725-3163

Mail: info@msj-kyushu.jp

HP: http://msj-kyushu.jp/

今回の記事

- ◆第41期日本気象学会九州支部理事補充選挙報告・新理事の紹介
- ◆日本気象学会九州支部2021年度第1回理事会議事概要
- ◆支部会員便り「地方自治体気象予報士のお仕事」
- ◆支部事務局からのお知らせ

第41期日本気象学会九州支部理事補充選挙の報告・理事の紹介

九州支部事務局

4月期の異動に伴う支部理事4名の補充選挙のため、4月13日に第41期理事の選挙告示（支部ホームページへの掲載および支部会員宛メールにより選挙実施の通知と立候補受付のお知らせ）を行い、4月28日の立候補期限までに4名の会員から立候補の届出がありました。

支部規約により、信任投票（有効投票総数の過半数の信任を得た場合当選）となりました。これを受けて、5月7日に選挙公示を行い事務局から支部会員宛、公示文および投票用紙等を郵送しました。5月24日到着分まで郵送による投票を受け付け、4月時点の支部会員174名のうち115名（投票率66.1%）から投票がありました。

開票結果は支部ホームページに掲載しているとおり、立候補された4名の方が全員当選となりました。

今回の選挙で当選された理事を加え、現在、第41期の九州支部理事は次のとおりです。

（敬称略）

松村 崇行	福岡管区気象台・台長
廣岡 俊彦	九州大学大学院理学研究院・教授
中辻 剛	福岡管区気象台・気象防災部長
竹村 俊彦	九州大学応用力学研究所・教授
鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科農学系学域・教授
富田 智彦	熊本大学大学院先端科学研究部・准教授
林 政彦	福岡大学理学部地球圏科学科・教授
羽廣 正樹	熊本市役所危機管理防災総室・主任技師
瀧下 洋一	鹿児島地方気象台・台長

日本気象学会九州支部 2021年度第1回理事会議事概要

6月4日(オンライン開催)

九州支部事務局

新型コロナウイルス対策のため、理事会はZoomによるオンライン開催となりました。
議事概要を報告します。

【出席者】(敬称略)

廣岡俊彦(常任理事)、竹村俊彦(理事)、富田智彦(理事)、鈴木賢士(理事)、林政彦(理事)、羽廣正樹(理事)、松村崇行(理事)、中辻剛(理事)、瀧下洋一(理事)、後藤貴士(事務局長)、北崎康文(幹事)、西郷雅典(幹事)

【議事】

1. 第41期理事補充選挙結果報告

日本気象学会九州支部第41期理事補充選挙の結果について、選挙管理委員会からの報告。開票の結果、4人全員(届出順に、中辻剛氏(福岡管区气象台)、羽廣正樹氏(気象予報士会西部支部)、松村崇行氏(福岡管区气象台)、瀧下洋一氏(鹿児島地方气象台))の信任が報告された。

2. 支部長、常任理事選出

理事の互選により、松村崇行氏が支部長、中辻剛氏が常任理事に選出された。

3. 2020年度事業報告

事務局から、決算を含めて2020年度の事業について報告した。

別紙1に2020年度の収支計算書、別紙2に2020年度の会計監査報告を掲載。

3-1. 理事会

2020年5月26日(金)~7月8日(水)、新型コロナウイルス対策のため、メール交換による書面開催となった。支部長および常任理事の選出、2020年度事業報告、2021年度事業計画案の承認を行なったことが報告された。

3-2. 会員向け研究会など

(ア) 第42回支部発表会

2021年3月7日(日)~14日(日)、Zoomによる発表会を3月7日に行ない、14日までの1週間をGoogleDriveでの質疑期間としてオンラインで開催した。10題の原稿が寄せられ、発表者は学生(大学院生、学部生)や气象台職員であった。また、通常の研究発表に加え、以下の特別講演を行なった。

望月崇氏（九州大学 理学研究院 地球惑星科学部門 准教授）

「近未来の気候変動や異常気象の理解と予測に向けた取り組み」

3-3. 一般向け行事 参加者数には関係者を含む）

（ア）第20回気象教室

2020年11月8日（日）、「台風観測と洪水予報の未来」をテーマとして、山田広幸氏（琉球大学理学部 准教授）「台風の航空機観測～米国の流儀、日本の挑戦～」、芳村圭氏（東京大学生産技術研究所 教授）「近年の日本の洪水事例及び洪水予測研究について」による講演をオンラインで開催。九州大学がZoomのホストとなり、琉球大学、東京大学、九州支部事務局の三者をネットで接続し、同時にYouTubeでのリアルタイム配信も行った。質疑は、Zoomのチャット機能やSlidoのチャットを使用。Zoom参加158名、YouTube最大同時接続数47名で、合計約200名の参加。講演会終了後、1週間継続したYouTube動画配信には、637回のアクセスとなった。

（イ）ジュニアセッションin九州

3月7日の支部発表会のプログラムに組み込んで、オンラインで開催。熊本県立第一高校（熊本市）、鹿児島玉龍高校（鹿児島市）、熊本県立宇土高校（2題）（宇土市）の3校（4題）の発表があった。

（ウ）第12回気象サイエンスカフェin九州

2021年2月14日（日）、「気候変動のリスクと社会の大転換」をテーマとし、講師は江守正多氏（国立環境研究所地球環境研究センター）、ファシリテーターは栗原めぐみ氏（気象予報士会西部支部、RKK熊本放送）で行なった。Zoom参加64名、YouTube最大接続数28名で、合計約90名の参加。講演会終了後、1週間継続したYouTube動画配信には、270回を超えるアクセスがあった。なお、後日、気象予報士会西部支部との共催としてもよかったのでは、という意見があったことを報告した。

3-4. 支部だより

年4回発行することとしているが、2020年度は3回（No.132～134）発行したことが報告された。

3-5. 支部奨励賞

最大で毎年3名選び顕彰しているが、2020年度は該当者なしで、受賞者がなかったことが報告された。

3-6. ホームページ

各種イベントの開催案内等を掲載していること、会員専用ページには、支部だよりのバックナンバーや支部発表会の原稿、気象教室の講演資料も掲載していること、さくらインターネットと契約、掲載等は事務局で行っていることについて報告された。

3-7. 会員数

2021年4月30日現在の九州支部会員数は174名で、若干の減少傾向であることが報告された。

3-8. 決算報告、会計監査報告

2020年度から支部強化基金が廃止となり、講演会やサイエンスカフェ等の普及啓発活動には、1件あたり一律20,000円の活動助成金となった。このため収入は2019年度より約22万円の減少となったものの、新型コロナの影響で、会場開催イベントが全てなくなり、オンライン開催となったため、支出は約11万円となり、約99万円の繰越金となったことが報告された。また、会計監査の結果、これらについて適正に処理されていることが報告された。

<質疑>

事業報告および決算報告については特に意見はなかった。

4. 2021年度事業計画案

4-1. 理事会

4-2. 会員向け研究会など

(ア) 第43回支部発表会

2021年度支部発表会は、昨年度と同様Zoom&YouTubeなどによるオンライン開催とする。例年、3月上旬（3月の第1日曜日）に実施しており、2022年3月6日（日）の予定。

<質疑>

開催時期、特別講演テーマ等について、特に意見はなかったが、開催方法について、以下の意見があった。

- 支部発表会は9カ月先であることから、もしかしたら、会場開催もできる可能性もないわけではないが、いずれにしてもバックアップとして、オンラインで開催する体制を準備しておく必要がある。会場開催とオンライン開催の両方を睨みながら準備するのは手間がかかる。本部の気象学会も最初は現地開催も同時並行して準備していたが、結果的に全部オンライン開催になってしまって、結構大変な感じだった。支部活動はそれに比べ小規模ではあるが、準備が大変なので、最初から今年度はオンラインでやるということというのが結果的によいと考える。
- 基本的には案を支持する。参考情報として、全国理事会の講演企画委員会で示されたことでは、12月初めに行われる気象学会の秋季大会は、現在ハイブリッドで計画しているようである。オンデマンド講演、および一部の口頭発表や授賞式は現地の三重大学で行われる。12月初めの開催ということで、通常より遅い開催となっている。本部が主催するサイエンスカフェや気象教室は、11月末に行う気象講演会まで含めて全部オンラインで行なうとのことである。3月の九州支部発表会の一部口頭発表については、状況がかなり改善し会場が確保できた場合は、柔軟に対応すれば良いと考えるが、基本的には、現在の案のとおりと考える。

4-3. 一般向け行事

(ア) 第21回気象教室

2021年度もZoom&YouTubeなどによるオンライン開催とする。開催時期は、夏から秋（8月～11月）で検討する。

<質疑>

講演テーマについて、特に具体的な提案はなかったが、開催方法について、以下の意見があった。

- ・今年度の8月から12月のイベントについては、タイミング的に対面開催（会場開催）は難しいので、結果的に、一般向けイベントはオンライン開催となるのではないかと思う。

（イ）ジュニアセッションin九州

2021年度も昨年度と同様、高校生を対象とし、支部発表会のなかで、人が集まる形式の会場発表は行わず、オンライン開催とする。

＜質疑＞

オンライン開催について、以下の意見があった。

- ・オンラインなら地元に住ながら参加できるというメリットがある。もちろん、参加者本人は専門家の先生方に直接話が聞けるという楽しみはあったと思うが、現地に行くのは結構大変な面もある。気象学会春季大会でも、平日の夕方であるにも関わらず、全国からかなり多くの発表があった点は良かった。今後、会場開催になったとしても、ジュニアセッションについては、遠隔でも出来るようにするのがベストと考える。
- ・基本的にジュニアセッション等もオンライン開催で行うことには賛成する。支部で発表するのを全国で視聴できることは大変良い。一般の方だけでなく、中学生にも高校生の発表を聞いてもらうような機会があれば底辺が広がるような気がするので、できる限り周知して、多くの方が聞けるようにすると良い。
- ・仮に、支部発表会を会場開催でやる場合であっても、高校生のジュニアセッションは、オンラインでやった方が良い。

（ウ）気象サイエンスカフェin九州

2021年度もオンライン開催とする。開催時期は、2021年12月頃で検討している。気象予報士会西部支部、福岡管区气象台との共催を検討する。

＜質疑＞

講演テーマについて、具体的な提案はなかったが、気象予報士会との共催については賛成する意見があった。

（エ）その他

支部活動および一般向け行事全般についてその他、以下の意見があった。

＜質疑＞

- ・最小限の努力で最大限の効果を得られるよう取り組むのがよい。コロナの情勢によってどう変わるかは分からないが、新しい様式が浸透してきているのも事実で、ウェブ開催のメリットもある。その都度、状況に合わせて、多くの方が参加できることが望ましい。
- ・九州大学のZoomアカウントは昨年よりバージョンアップしており、ウェビナーが利用可能となった。不特定多数の参加者の名前を隠すことができるようになるし、質疑も選択的に操作可能となる。また、参加可能な人数が最大300人から最大500人になる。
- ・来年度以降は分からないが、今年度は基本的にオンライン開催というのは変わらないと考える。竹村先生に作業負担がかかることが想像できて申し訳ない。Zoomのアカウントには当然費用がかかるが、支部でZoomを使えるような形にしておくというのも1つの選択肢かと思う。
- ・Zoomアカウントについては、事務局でも検討してみたが、金額的に高額であり、毎月、万単

位の費用がかかる。使用頻度が少ない割にはコストがかかる。

- 支部発表会やサイエンスカフェがオンラインになると、九州支部の枠組みを超えたところから人が集まって来ているので、現状はこのままでも良いとして、将来的には枠組みの見直しを行なってもよいのではないかと思う。
- どのような枠組みにするかイメージが湧かないが、例えば、支部発表会のZoomは九州に限る、Youtube動画は全国に配信、などの形態が考えられる。現在は案を持っていない。
- 気象教室、サイエンスカフェの講師・テーマについて、早めに意見をいただければ、手配もしやすい。昨年度のアンケートによると、局地的気象や集中豪雨をテーマにして欲しいという意見が目立った。サイエンスカフェでは集中豪雨の専門家に依頼するのもありかと思う。数値予報について希望する声も若干みられる。
- 来場者からの希望にこたえる、という考え方は大切である。

4-4. 支部だより

可能な限り年4回の発行を目指す。

4-5. 支部奨励賞

研究を本務としていない会員（学生、気象台職員、教員など）を対象とした顕彰であり、支部細則では最大3名の受賞者を想定している。

4-6. 日本気象学会奨励賞受賞候補者推薦

2021年度分の推薦締め切りは、2022年2月頃と予想される。理事には推薦をお願いしたい。当支部から推薦する場合には、事務局で調書等の資料を作成し、理事と調整の上、推薦することとする。

4-7. ホームページ

各種イベントの開催案内等の掲載を行い、HPの充実に努める。

4-8. 会員数の拡大

最近数年減少傾向が続いている。気象学会の活動を支えるための会費収入を確保するためには、会員数の拡大が必要であり、これ以上の減とならないよう、また将来へ向けて安定的に学会が運営できるよう若手を中心に入会を勧めるなどの取組を行う。

4-9. 2021年度予算案（別紙3）

予算案策定の基本方針は以下のとおり

2020年度から支部強化基金は廃止となり、講演会やサイエンスカフェ等の普及啓発活動には、1件あたり一律20,000円の活動助成金ということになった。2021年度は九州支部では①気象教室、②ジュニアセッションin九州、③サイエンスカフェin九州の3件の支部普及活動に対する活動助成金が6万円交付される。

理事会、支部発表会、気象教室、ジュニアセッション、サイエンスカフェはオンライン開催とし、会場費・交通費等の経費をゼロとした。オンライン開催については、昨年度と同様、九州大学のZoomアカウントを利用させていただくこととした。

講演謝金については、これまで源泉徴収を行わず支払ってきたが、支払者の義務として、今

年度から源泉徴収を行なう形式に改める。

2021年度予算について以下の意見があった。

<質疑>

- Zoomのアカウント費用は、支部が負担するようにすべきである。
- 必ずしも九州支部だけの問題ではないので、気象学会として本部で用意できるものがあれば、全国支部にもシェアするという考え方もある。あるいは複数の支部で共同するなど。実際の使用頻度に比べて負担が大きいのということなら、そのような工夫もあるかと思う。現在お金があるからということだけでなく、いかに効率的・効果的に使っていくかということについて、本部を含めて相談してはどうかと思う。
- Zoomアカウントは教育用なら安い。大学は20アカウントを教育用として確保している。一般用として購入すると非常に高くなるのは仕方がない。

Zoomアカウントを含め、イベントの開催方法については、課題が残り、引き続き検討事項となった。

5. 担当理事の分担

今年度は以下の担当で行うことが承認された。

- 支部発表会：廣岡理事（九大）、竹村理事（九大）、中辻理事（福岡管区气象台）
- 気象教室：廣岡理事（九大）、竹村理事（九大）、中辻理事（福岡管区气象台）
- 気象サイエンスカフェin九州：竹村理事（九大）、中辻理事（福岡管区气象台）、羽廣理事（予報士会）
- ジュニアセッションin九州：廣岡理事（九大）、中辻理事（福岡管区气象台）、林理事（福岡大）
- 支部奨励賞：竹村理事（九州大）、鈴木理事（山口大）、富田理事（熊本大）、林理事（福岡大）、羽廣理事（予報士会）、瀧下理事（鹿児島地方气象台）
- 支部だより：羽廣理事（予報士会）、富田理事（熊本大）、林理事（福岡大）、瀧下理事
- 日本気象学会奨励賞：中辻理事（福岡管区气象台）

6. 全国理事会・支部長会議の報告

学会本部（理事会、支部長会議など）における議論の内容や決定事項等については「天気」の誌面で報告されるが、地方支部にも関係が深い事項について、全国理事会に出席した廣岡理事から簡単に報告していただいた。

（廣岡理事）理事会では2つのワーキンググループが立ち上がっている。一つは、ウイズコロナ・ポストコロナWGで、2つの大会のうち春季大会はオンラインでも良いのではないかという意見や、春季大会はJPGUへの一本化という意見も出ている。もう一つの財務改善WGでは、財政事情が厳しいので、各委員会ごとの財務状況の改善の話が進められている。。

2020年度九州支部 支部交付金・活動助成費 収支計算書
2020年4月1日～2021年3月31日

別紙1

単位：円

項目	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
事業活動収入			
事業収入			
本部からの支部交付金(¥1200×180名+¥350,000)	566,000	566,000	0
年度当初本部留め置き	0	0	0
本部からの活動助成費(¥20,000円×3件)	60,000	80,000	20,000
前年度繰越金	455,927	455,927	0
雑収入			
預金利息	0	8	8
事業活動収入計(1)	1,081,927	1,101,935	20,008
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
九州支部発表会費	(110,000)	(10,055)	(99,945)
会場費(施設備品使用料含む)	0	0	0
特別講演講師謝金	10,000	10,055	△ 55
動画制作補助	10,000	0	10,000
特別講演講師旅費交通費	0	0	0
発表者旅費補助、事務局・役員交通費	0	0	0
講演要旨集印刷費	70,000	0	70,000
郵送費	20,000	0	20,000
気象教室費	(40,000)	(30,990)	(9,010)
会場費(施設備品使用料含む)	0	0	0
講演講師謝金	20,000	30,990	△ 10,990
動画制作補助	20,000	0	20,000
講演講師交通費	0	0	0
講演要旨集印刷費	0	0	0
役員・事務局交通費	0	0	0
郵送費	0	0	0
広告費(ポスター・チラシ制作費)	0	0	0
ジュニアセッションin九州	(22,000)	0	(22,000)
発表者交通費	0	0	0
雑費(郵送費含む)	22,000	0	22,000
気象サイエンスカフェin九州(福岡・鹿児島を一本化)	(25,000)	(20,660)	(4,340)
会場費	0	0	0
チラシ制作費	0	0	0
講師等への謝金	10,000	20,660	△ 10,660
動画制作補助	10,000	0	10,000
講師等交通費	0	0	0
役員・事務局交通費	0	0	0
通信費等	5,000	0	5,000
郵送費	0	0	0
九州支部奨励賞	(60,000)	0	(60,000)
受賞者記念品費	57,000	0	57,000
事務費	3,000	0	3,000
事業活動支出計(2)	257,000	61,705	195,295

別紙1 (続き)

単位：円

項目	予算額	決算額	差異
管理費支出			
ホームページ運営費	(20,000)	(20,686)	(686)
プロバイダ料金	20,000	20,686	△ 686
理事会費	0	0	0
役員・事務局交通費	0	0	0
開催費(会場費)	0	0	0
役員選挙費	(30,000)	(10,920)	(19,080)
郵送費	30,000	10,920	19,080
事務費	(50,000)	(17,004)	(32,996)
消耗品費等	45,000	16,910	28,090
その他郵送費(事業活動支出以外)	5,000	94	4,906
その他管理費	(10,000)	0	(10,000)
その他管理費	10,000	0	10,000
秋季大会開催準備費	0	0	0
支部強化会計への補填金	0	0	0
事業活動支出計 (3)	110,000	48,610	61,390
事業活動支出合計 (4)	367,000	110,315	256,685
Ⅲ 予備費支出			
予備費	(714,927)	0	(714,927)
予備費	714,927	0	714,927
予備費支出計 (5)	714,927	0	714,927
収支差額 (1) - (4) - (5)	0	991,620	(991,620)

※収支差額は翌年度へ繰越

日本気象学会九州支部 2020 年度会計監査報告

標記の会計について、収支決算報告書・出納簿・領収書・預金口座残高を調査・照合した結果、適正に処理されていると認めます。

令和 3 年 4 月 30 日

日本気象学会九州支部監査員

三好 良信 

2021年度九州支部 支部交付金・活動助成費 収支予算書
2021年4月1日～2022年3月31日

別紙3

単位(円)

項目	今年度予算額	前年度当初予算額	前年度からの増減
I 収入の部			
事業活動収入			
事業収入			
本部からの支部交付金(¥1200×174名+¥350,000)	558,800	566,000	△ 7,200
本部留め置き			0
① 本部からの年度当初配算額(人頭割額 + 一律額)	558,800	566,000	△ 7,200
② 本部からの年度当初配算額(活動助成額) ¥20,000円×3件(普及啓発活動の件数)	60,000	60,000	0
本部からの年度当初配算額(①+②)小計	618,800	626,000	△ 7,200
前年度繰越金	991,620	455,927	535,693
事業活動収入計(1)	1,610,420	1,081,927	528,493
II 支出の部			
事業活動支出			
事業費支出			
九州支部発表会費	(10,000)	(110,000)	△ 100,000
会場費(施設備品使用料含む)	0	0	0
特別講演講師謝金	10,000	10,000	0
特別講演講師旅費交通費	0	0	0
動画制作補助費	0	10,000	
発表者旅費補助、事務局・役員交通費	0	0	0
講演要旨集印刷費	0	70,000	△ 70,000
郵送費	0	20,000	△ 20,000
気象教室費	(30,000)	(40,000)	△ 10,000
会場費(施設備品使用料含む)	0	0	0
講演講師謝金	20,000	20,000	0
ホスト・司会謝金	10,000	0	10,000
講演講師旅費交通費	0	0	0
動画制作補助費	0	20,000	△ 20,000
講演要旨集印刷費	0	0	0
役員・事務局交通費	0	0	0
郵送費	0	0	0
広告費(ポスター・チラシ制作費)	0	0	0
ジュニアセッションin九州	(0)	(22,000)	△ 22,000
発表者交通費	0	0	0
雑費(郵送費含む)	0	22,000	△ 22,000
気象サイエンスカフェin九州	(20,000)	(25,000)	△ 5,000
会場費	0	0	0
チラシ制作費	0	0	0
講演講師謝金	10,000	10,000	0
ファシリテーター謝金	10,000	0	10,000
動画制作補助費	0	10,000	△ 10,000
講師等交通費	0	0	0
役員・事務局交通費	0	0	0
通信費等	0	5,000	△ 5,000
郵送費	0	0	0
九州支部奨励賞	(60,000)	(60,000)	0
受賞者記念品費	57,000	57,000	0
事務費	3,000	3,000	0
事業活動支出計(2)	120,000	257,000	△ 137,000

別紙3 (続き)

項目	単位(円)		
	今年度予算額	前年度当初予算額	前年度からの増減
管理費支出			
ホームページ運営費	(20,000)	(20,000)	0
	20,000	20,000	0
理事会費	(0)	(0)	0
役員・事務局交通費	0	0	0
開催費(会場費・お茶代など)	0	0	0
役員選挙費	(30,000)	(30,000)	0
発送費(切手・封筒等)	30,000	30,000	0
事務費	(45,000)	(50,000)	△ 5,000
消耗品費等	40,000	45,000	△ 5,000
その他郵送費(事業活動支出以外)	5,000	5,000	0
その他管理費	(10,000)	(10,000)	0
その他管理費	10,000	10,000	0
事業活動支出計(3)	105,000	110,000	△ 5,000
Ⅲ 予備費支出			
予備費	1,385,420	714,927	670,493
予備費支出計(4)	1,385,420	714,927	670,493

収支差額 (1) - (2) - (3) - (4)

0

0

△ 137,000

支部会員便り 地方自治体気象予報士のお仕事

熊本市危機管理防災総室：羽廣正樹氏（気象予報士会西部支部）

今年から日本気象学会九州支部の理事となりました羽廣（はびろ）と申します。

私は現在、熊本市の危機管理防災総室に勤めており、他にも気象予報士有志活動団体の防災W E S Tでお天気教室や防災講演などの啓発活動や、日本気象予報士会西部支部では会計も務めています。今年はNHK朝ドラの「おかえりモネ」の影響もあり、気象に関する興味関心が高まっていると感じています。私から、熊本市役所での防災業務と気象予報士としての活動について、簡単ではございますが紹介させていただきます。

熊本市防災部局の業務

私の主な業務は、ハザードマップの作成や啓発、水防関係業務、要配慮者利用施設の避難確保計画作成の支援、その他防災啓発業務などを行っています。ハザードマップについては国交省や熊本県が作成した災害リスク（洪水、高潮、土砂災害、津波）を図面に重ね合わせたものを作成し、公表しています。令和3年からはスマートフォンでも簡単に確認できるようGPS機能の追加し、普及啓発を図っています（図1）。水防関係業務については、気象警報・注意報が発表されたときに態勢をとり、大雨に備えています。当室から避難情報を発令するため、防災気象情報を中心とした防災情報を読み解く力が非常に重要になります。避難情報の改正が施行された5月20日に、警戒レベル3高齢者等避難を発令しました。要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援

については、令和2年7月豪雨の千寿園の被害を受け、本市でも実効性のある計画作成支援をしているところです。一部の業務を紹介させていただきましたが、避難行動に直結する業務を行っているため、防災気象情報などの防災情報を常に確認しておくことはもちろんのこと、気象予報士の知識を活かして気象解説や解説資料の作成、共有を図っています(図2)。



図1 熊本市ハザードマップ

熊本県では21日明け方にかけて非常に激しい雨の恐れ。
 ●土砂災害に厳重に警戒
 ●低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒

1 気象情報・警報注意報等の状況 20日17時00現在
 5月20日 5:51 大雨注意報発表(注意報発令態勢)
 9:33 洪水注意報発表
 16:35 大雨・洪水警報(警報発令態勢)

【雨雲の動き 5月20日16時00分時点】 【土砂災害 5月20日16時00分時点】

2 被害等の状況
 ・なし

3 予想雨量
 ・20日～21日 1時間降水量 熊本地方 60mm/1h
 ・20日18時～21日18時 24時間降水量 熊本地方 100から150mm

4 降雨予想

熊本市	20日						21日						備考		
	15-18	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24	00-03		03-06	06-09
大雨															大雨注意報
土砂災害															土砂災害警戒
洪水															洪水注意報

5 注意報・警報の見込み(気象台聞き取り)
 ●本日夜(18時)以降から21日明け方までは非常に激しい雨が予想される。
 ●雨のピークは20日18時～21日6時まで
 ●大雨警報(浸水害)の発表の可能性あり。
 ●前報が残り、50mm/1hの降水がある場合、土砂災害警戒情報の発表がある。

図2 水防時に活用する気象解説資料(イメージ)

気象予報士としても活動

業務以外でも気象予報士として様々な活動をしています。3年前に日本気象予報士会に入会し、熊本での勉強会やオンライン勉強会に参加しています。また、気象予報士有志活動団体の防災WESTでも約2年前から活動しています。防災気象情報の見方や過去の災害の気象解説、お天気教室やマイタイムライン研修など、自分でできて社会貢献に繋がるような活動しております。昨年は地元の新聞で7月から9月にコラムを書かせて頂きました。今後も気象予報士としてできることを少しずつ、行っていきたいと思います。



写真1 お天気教室の様子



写真2 講演の様子

気象予報士になったきっかけから現在まで

私が気象予報士になったきっかけは小学校4年生のときの自由研究です。天気図や空について調べるもので、調べていくうちに空を見ることや天気予報を見るのが好きになりました。

その後、大学時代は鹿児島で気象と土木を学び、気象予報士を取ると意気込んでいました。気象予報士試験のバイブルとも言われている小倉義光さんの著書である一般気象学を使った講義を受講しましたが、レポートやテストでは計算問題も多く出題され、難しかったのを覚えています。在学時代には合格できませんでしたが、卒業してからの試験で合格しました（4回受験しました）。現在は仕事でも活かしていますが、空を見て楽しむことも忘れずに、サイクリングや空の写真を撮るなど自然と触れ合う時間も大切にしています。



写真3 運動時に撮影した写真

終りに

自治体防災業務の中で感じることは、天気図はもちろんですが、気象庁が発表する気象情報をきちんと見て解説することがとても重要ということです。しかし、私自身もまだまだ分からないことが多く、気象学の奥深さを実感しています。九州支部理事をさせて頂くことになりましたので、気象学を学ぶことを純粋に楽しみ、学んだことを業務や日々の活動にいかし、気象学の発展に少しでも貢献できるように自分にできることを1歩ずつ進めていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

支部事務局からのお知らせ

メールアドレスの登録および変更のお願い

支部事務局から会員の皆さんへの連絡やお知らせには、主に電子メールを利用しています。現在、支部会員の約9割の方にメールアドレスを登録いただいています。しかし、メールを送付した際に、送信エラーや不達などのメッセージが帰ってくる場合があります。以前はメールが届いていたのに、最近メールが届かなくなったという方は、職場の異動、学校の卒業・就職や進学などでメールアドレスが変更になっている可能性がありますので、確認をお願いします。

また、以前からお願いしていますが、インターネットが利用できる会員の方で、アドレスを登録していただいていない方も、新規に登録をお願いします。

アドレスの変更や新規の登録については、支部事務局までご連絡ください。

事務局からのメールは、一斉送信する際にはBCCで送信するため、他の会員にメールアドレスが知られることはありませんのでご安心ください。

学会への入会のお誘い(会員増加への協力お願い)

今回の支部理事会の報告にもあるとおり、学会の会員数は長期的には減少傾向にあります。これは九州支部だけではなく、全国的な傾向です。学会の活動は会員の会費で運営されており、会員数の減少は将来的には学会の十分な活動に支障を来たすおそれもあります。

職場や学校などで気象学に興味をお持ちの方が周囲におられましたら、ぜひ入会を勧めていただくようお願いします。入会手続きについては、支部事務局へ連絡いただくか、学会のホームページを紹介ください。

投稿のお願い

支部だよりには会員の皆様からの投稿も掲載します。研究集会や講演会などのお知らせあるいは報告、主に大気中で起こった珍しい現象をとらえた写真、気象あるいは気象学にまつわる話題など、気象学会の活動に相応しいものであれば何でも結構です。投稿お待ちしております。